

職業家庭科 職業科 家庭科
(職業家庭科は4段階)
(職業科 家庭科は5段階～)

職業家庭科，職業科，家庭科の目標

小学部	
中学部	明るく豊かな職業生活や家庭生活が大切なことに気付くようにするとともに，職業生活及び家庭生活に必要な基礎的な知識と技能の習得を図り，実践的な態度を育てる。
高等部	職業科 勤労の意義について理解するとともに，職業生活に必要な能力を高め，実践的な態度を育てる。
	家庭科 明るく豊かな家庭生活を営む上に必要な能力を高め，実践的な態度を育てる。

内容の構成（観点の構成）

小学部相当	1段階												
	2段階												
	3段階												
中学部相当	4段階	職業家庭科										職業家庭 76	
		働くことの意義	道具・機械等の取り扱いや安全・衛生	役割	職業に関する基礎的な知識	産業現場等における実習	情報	家庭の役割	消費と余暇	道具・器具等の取り扱いや安全・衛生	家庭に関する基礎的な事項		
77	79												
高等部相当	5段階											職業	家庭
	6段階											78	80
職業科											家庭科		

観点	内容	指導内容
働くことへの意	働くことに心をもち、作業や実習に参加し、働く喜びを味わう。	<ul style="list-style-type: none"> ・物を作ったり、育てたりする活動に興味をもち、作る、育てるなどの活動が働くことにつながることに気付く。 ・手洗いや身支度、作業手順や工程の確認、材料や道具の用意などの作業の準備に取り組む。 ・作ること、育てること、運ぶこと、計数や計量を行うことなどの作業活動に取り組む。 ・半完成品の整理、完成品の計数や整理、材料や道具の片付け、諸点検などの片付けに取り組む。 ・作業や産業現場等の実習に取り組むことで、達成感や成就感をもったり、製品などへの感想を受け満足感を味わう。
職業に関する基礎的	職業に就くためには、基礎的な知識と技能が必要であることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人々や家族、先輩などが会社で働いている様子を見て、身近な品物がどのように作られるかを知る。 ・物を作るために、多くの人々が仕事を分担し、協力して仕事をしたりしていることを知る。 ・職業の名称や仕事内容、生産品や製品、商品の名称、会社や商店などの役割が分かる。 ・職場には多様な仕事があり、職業に就くためには、仕事に必要な技能を身に付けることが必要であることが分かる。 ・仕事の好き嫌いをしないで最後まで仕事を成し遂げることや時間帯と場所などに応じた適切な服装、動作、言葉遣いが大切であることが分かる。 ・コンピューター等の情報機器を活用したり、資格取得や技術検定に関心をもったりする。 ・職場見学や事業所での就業体験をしたりするなどの体験的な学習を通して、お手伝いとは異なる働く活動の大切さが分かる。
道具・機械等の取り扱い	道具や機械、材料の扱い方などが分かり、安全や衛生に気を付けながら作業や実習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な工具等や農具、工作機械や原材料の名称や簡単な操作の仕方や材料の扱い方が分かる。 ・作業に必要な道具や機械の手入れ、後片付けや整理整頓の仕方が分かる。 ・道具や機械の主要な部分及び材料の名称が分かる。 ・道具や機械を使って、原材料を無駄なく使うことが分かる。 ・製品の長さや重さを測ることが分かる。 ・材料等を数えたり、運搬したりすることが分かる。 ・道具や機械の簡単な手入れや後片付けをしたり、材料の管理・保管、簡単な伝票に記入したりすることが分かる。 ・安全や衛生に関するいろいろな用語や表示に関心をもつ。 ・危険な場所や物に注意を払うことができる。 ・作業前・作業後のうがいや手洗い、作業帽やマスクを着用することができる。 ・自分や他人の安全や衛生、健康に気を付けて仕事をするすることができる。
役割	自分の役割を理解し、他の者と協力して作業や実習をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事の全体の内容と分担した仕事の内容や手順が分かる。 ・自分の仕事について分からないときは、人に聞くことが分かる。 ・同じ場で同じ仕事をする人と一緒に協調して仕事をしたり、他人の分担との関連を理解して、自分の分担の仕事をしたりすることができる。 ・仕事のきまりや指示などを守ることが分かる。 ・必要のないとき以外は、人の仕事に不要な手出しや口出しをしたりしないことが分かる。
産業現場等における実践	産業現場等における実習を通して、いろいろな職業や職業生活、進路に関心をもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活の実際を経験することで、働くことの大切さを感じたり、職場のきまりを知るなど社会に通用する働く力を身に付ける。 ・自分の住んでいる地域にある様々な職場やそこで働く人、働く生活に興味をもつ。 ・職場での生活や仕事を通して、働くことの大切さや職場のきまりを知る。 ・実習を通して、自分の住んでいる地域にある様々な職場やそこで働く人、働く生活に興味をもつ。 ・職場見学を通して、働いている人の様子や仕事の内容、職場での生活に関心をもつ。 ・実習先の職場の人と協力して仕事をしたりすることで、職業生活に関心をもつ。 ・実習を通して、自分の適性やもっている技能が分かる。 ・職種によっては、技能取得や資格が必要なものがあることを知る。
家庭の役割	家族がそれぞれの役割を分担していることを理解し、楽しい家庭づくりをするために協力する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、兄弟姉妹などが家庭生活の中で仕事を分担していることで互いが支え合っていることに気付く。 ・自分の存在が保護者や兄弟姉妹などから認められていることに気付く。 ・自分の身の回りのことを自分でする。 ・家庭内の仕事の手伝いをする。 ・家族の団らんに参加する。
家庭に関する基礎的な事項	家庭生活に必要な衣服とその着方、食事や調理、住まいや暮らし方などに関する基礎的な知識と技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・清潔な衣服を着ること、簡単な日常着などの手入れをする。 ・洗濯用の器具の扱い方、洗剤の使い方などが分かり、簡単な日常着を洗濯する。 ・ボタン付けや布と針と糸を使って縫う。 ・簡単な手芸作品を作る。 ・季節や場所などに合わせて自分で身なりを整える。 ・盛りつけや配膳などの食事の準備、後片付けをする。 ・食器棚を整理する。 ・メニューを見て料理を注文し、マナーを守って食事をする。 ・自分の持ち物を整理する。 ・住まいの簡単な手入れや飾り付けなどの手伝いをする。 ・部屋の換気、採光、照明の仕方を知り、調整する。 ・照明器具、冷暖房器具を安全に使う。 ・清掃用具を使って住居を清潔にする。 ・ゴミを分別する。 ・掃除用の洗剤、殺虫剤を安全に使う。 ・住居周りの環境の整備を行う。 ・衣服とその着方、食事や調理、住まいや暮らし方に関する基本的な事柄が分かり、自分で処理できる。
情報	職業生活や家庭生活で使われるコンピュータ等の情報機器の初歩的な扱いに慣れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報機器が使われていることに興味をもち、簡単な取り扱いができる。 ・仕事や家庭生活に関する簡単な用件を伝えたり、受けたりする。
余暇	家庭生活における余暇の過ごし方が分かる。	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ、手芸、園芸、飼育などを楽しむ。 ・休日に買いものなどをして楽しく過ごす。 ・来客の対応や親戚、知人の家を訪問する。

観点	内容	指導内容
5 段階	働くことの意味	<ul style="list-style-type: none"> ・人々は皆、働きながら生活し、働くことを誇りとし、働くことを通して充実感や生きがいをもてるようになることなど、働くことを人々が尊重していることを知ることなどを通して、働くことの意味が分かる。 ・実際の作業や実習場面での経験や体験を通じて、一つ一つの作業工程の手順が分かり、その工程に必要な仕事を成し遂げる。 ・手洗いや身支度、作業手順や工程の確認、材料や道具の用意、作業目標の確認などの作業の準備ができる。 ・作る、育てる、運ぶ、計数や計量を行う、伝票等の処理をする、清掃や販売活動することなどの作業活動ができる。 ・半完成品の整理、完成品の計数や整理、材料や道具の片付け、諸点検、作業の評価、売上げの確認や報告などの作業の片付けができる。 ・確実性、持続性、巧緻性及び安全・衛生に気を付ける態度などを育て、習慣化する。 ・物を作ったり作物を育てたりする活動に意欲的に取り組み、成就感を得て仕事への自信をもち、積極的に仕事に取り組む。
	生道具・機械等の取り扱いや安全・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・作業に必要な工具類や農具、工作機械、運搬用機器等の扱い方に習熟する。 ・道具や機械などの種類や用途が分かり、それらを使って品物を運搬したり、材料や半製品を加工したり、品物を梱包したりする。 ・道具や機械を使って製品や材料の長さ、重さなどを測定器で測定すること、簡単な図面を見たり書いたりすること、仕事に関連する伝達、作業伝票の処理、日報の記入などの簡単な実務を正確にする。 ・道具や機械を安全と衛生に気を付け正しく使い、それらの手入れや簡単な修理及び管理をきちんと行う。 ・原材料や収穫物、半製品、完成品の管理や保管方法が分かり、適切に取り扱う。 ・製品に必要な原材料の名称が分かり、必要量を量って使い、材料や製品を整理して保管する。 ・危険な場所や状況に注意を払い、一つ一つの工程を成し遂げたり、健康に悪影響を与えるような状況避けたり、つらくないようにしたりしながら作業や実習をする。 ・安全や衛生に関する用語や表示の意味が分かる、自分や他人の安全・衛生に気を配り作業する、機械の故障や危険または不衛生な状態に気付いたら知らせたり、適切な処理を行ったりする。
	役割	<ul style="list-style-type: none"> ・作業工程における担当、仕事内容、手順などにおける自分の役割が分かり、その作業を確実に行うとともに、最後までやり遂げる。 ・決まった時間内に仕事を確実に成し遂げる、作業が終了したときは報告する、仕事の内容や方法が分からないときは教師に尋ねる、不良品を見分けることができる。 ・同じ工程を複数で行ったり、連続する工程を分担したりする場合、互いの力を出し合って協調して仕事をすする。 ・他の者の動きに協調して仕事をしたり、他の者の間違いなどに気付いたら、相手にそのことを伝えたりする。
	職業に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの生活経験や進路に関する情報、自己理解などに基づいて、将来の社会生活の中で自己実現できる場を自分で選ぶ。 ・自分の能力や適性などを理解し、学校卒業後の進路を決める。 ・働くことの大切さや厳しさを知り、卒業後の生活について自覚をもつこと、職場で働く人の姿を見るなどして卒業後の生活を見通す。 ・職種によっては資格や検定等が必要なことを知る。 ・地域社会にある農・林・水産業、工業、商業などの多様な職場に関心をもち、それらの職場の果たす役割や組織、仕事内容、労働と報酬の関係などの基本的な労働条件などについて分かる。 ・職場における生産活動等の社会的な意義、職場の役割やその役割、部、課、係などの機能分担、勤務時間や残業などの労働時間、賃金、年次休暇などの基本的な労働条件を知る。 ・健康保険、雇用保険、年金などの制度のあらましを知る。
	お産業現場等における実習等	<ul style="list-style-type: none"> ・職業生活や、社会生活の実際を経験することを通して、社会に貢献する働く力を身に付けることの意味を理解し、自己実現としての進路選択につなげるようにする。 ・実習先で生産している物が、社会でどのように利用されているかを理解したり、製品の良否が分かり、不良品を出さないように注意して仕事をするようにする。 ・実習先のいろいろなきまりを守ったり仕事に関する自分の分担に責任をもってやり遂げたり、状況に応じて自ら職場の人と協力したり、実習中の健康安全及び衛生に注意したりする経験をする。
	健康・余暇管理	<ul style="list-style-type: none"> ・翌日の体調を考慮した睡眠時間の確保、決められた休憩時間の有効活用、食事の時間の取り方など普段の健康管理の方法を知る。 ・休日の適切な過ごし方や職場のサークル活動、福利厚生施設などの利用方法を知る。 ・実習中に自分で健康管理をしたり、適切に休息をとったり、職場のサークル活動につながる趣味をもつなど実践する。
	器機	<ul style="list-style-type: none"> ・電話やファクシミリで仕事に関する用件を伝えたり、受けたりすることや、印刷物を複写機等で印刷すること、コンピューター制御による機器への簡単な入力をする。
	情報機	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で使われる機械やコンピューター等の情報機器などの簡単な操作をする。

観点	内容	指導内容
6段階	働くことの意義	<ul style="list-style-type: none"> ・作業や実習を通して、物を作ったり、作物を育てたりすることが社会に役立つことが分かり、やりがいや仕事の喜びを感じ、働くことの意義が分かる。 ・作業計画を作成し、役割分担によって自分の仕事の意味を理解して仕事に取り組む。 ・作業計画に従って、作業の準備や片付け、分担の仕事を正確に遂行するなど、目標の達成を目指して主体的に取り組む。 ・作業の要領や注意を集中するポイントが分かる。 ・職場で働くために求められている作業態度を意識して、円滑な仕事の仕方などが分かり、標準的な動作を順守しつつ、安全・衛生にも留意して、円滑に作業ができる。 ・正確な作業を長時間継続したり、目標を自覚し、目標の達成を目指して積極的に取り組み、最後までやり遂げる。 ・時間帯や場所などに応じた服装、動作、あいさつや言葉遣い、注意を要するポイントが分かり、適切に作業ができる。
	生道具・機械等の取扱いや安全・衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・工具や農具、工作機械、運搬用の機器、製造機器などの特徴や構造、扱い方が分かり、確実に扱う。また、作業内容と使用する道具や機械の仕組みの関係が分かり、それらを安全かつ正確に使うことや、衛生に気を付け取り扱う。 ・道具や機械を利用して品物を決まった場所に正確に運搬する、品物を正確に数えたり、決まったりと並び並べたり、束ねたり、積み重ねたりして整理し保管する。 ・道具や機械などを点検し、日常的な手入れや簡単な修理をする。 ・原材料や収穫物、半製品、完成品の保管、在庫状況の把握を正しく行う。 ・原材料や製品、収穫物のそれぞれの特徴を理解し、適した方法で決められた場所に安全や衛生に留意して保管する。 ・仕事に関連する作業指示書、在庫表、報告書などが分かり、その記入や読み取りなどの実務を適切に行う ・危険な場所等を予測したり、不衛生な状態にしないよう日常的に対応したりしながら、生産品や製品をより多く生産する。 ・安全や衛生管理に関する手引書を理解して、自分や他人の安全で衛生的な環境を確保して作業をしたり、機械の故障や危険な状況、不衛生な状態の有無を点検し、気付いたら報告や連絡をするなど、必要な対応をしたりする。
	役割	<ul style="list-style-type: none"> ・作業の工程全体を理解し、自分の分担に責任をもち、他の者と協力して作業や実習をする。 ・原材料の加工から製品のできあがる過程や分業や協業をしていることを知り、自分が担当しているところが分かる。 ・作業工程における担当、仕事内容、手順が分かるとともに、機械等が不調な場合は、その対応を行ない、その作業を最後まで正確にやり遂げる。 ・自分の分担する仕事の役割が分かり、決められた仕事を正確に行ったり、作業の手順や指示・伝達などを理解し、そのとおりに仕事をしたり、仕事の手法や段取りなどが分からないときは、分からないことをはっきりさせて聞いたりする。 ・他の者と協調して効率よく仕事をする、不良品等が出た場合は原因を探し適切に処理する。 ・分担した仕事に必要な技能などが自分に備わっているかなどの自己理解ができる。 ・作業結果を自ら確認できる。また、他の者が担当している作業内容についての理解を図り、作業結果を相互に評価できる。
	職業に関する知識	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路先を決めるための情報として、職場の組織とそれぞれの役割、労働時間と報酬の関係、職場での各種保険制度などを理解する。 ・職種による免許・資格や検定等の取得などについて知る。 ・職場の組織が分かり、職場では組織の一員として働くことや、労働時間及び勤務時間、賃金、福利厚生及び資格と給与等との関係などの基本的な条件が分かり、進路選択の参考にする。 ・職業生活に必要な実的な知識に基づいて、卒業後の生活を具体的に見通す。 ・職業生活をする上で、健康保険、雇用保険、年金などが大切であることを理解する。
	お産業現場等における実習等	<ul style="list-style-type: none"> ・生産品や製品又は商品の名称とその取り扱い、それらの有用性、企業の組織体制及び配属された職制、分業や協働における責任と職場で必要とされる作業態度、自分にも他者にも重要な安全・衛生及び健康の維持などについて知る。 ・通勤の方法、通勤にふさわしい服装について知る。
	健康管理・余暇	<ul style="list-style-type: none"> ・実習中に健康の自己管理の方法を身に付けること、職場の休憩時間にお茶を入れるなど職場の習慣を知るとともに、効率のよい休憩時間の使い方をすること、職場の旅行やサークル活動への参加方法や福利厚生施設の計画的な利用方法を知るとともに日常的に、健康管理や余暇活動を実践する。
器機	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で使われる機械やコンピューター等の情報機器などの操作をする。 ・工作機械や計算機、計量器にデータを入力して作動させること、複写機やコンピューターなどの事務機器の扱いが分かって事務作業をすること、電話で仕事に関する要件を正確に伝えたり、受けたりすること、職場のコンピューターなどによる情報管理をする。 	

観点	内容	指導内容	
5段階	家庭の役割	<ul style="list-style-type: none"> 家族がそれぞれの役割を果たしていることを理解し、楽しい家庭づくりのための自分の役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> 親や兄弟姉妹、祖父母が家庭生活の中でそれぞれに応じた仕事を分担し、それをやり遂げることで互いに支え合っていることが分かる。 家庭生活の中で家族が団らんし、互いに認め合っていることが分かる。 自分の身の周りのことを自分で処理できる。 家族の一員として分担された仕事をやり遂げることができる。 家族の団らんに加わり家族の心情を受け止めたりすることができる。 自分の分担された仕事を責任を持って継続して実践することができる。
	消費と余暇	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活における計画的な消費や余暇の有効な過ごし方が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住で実際に扱う物や金銭を自分の生活の事柄と結びつけて考えることができる。 衣食住で実際に扱う物や金銭を自分の生活の事柄と結びつけて、日常生活で役立つ行動が実践できる。 衣食住などの生活で使う身の周りの物を、必要な物かどうかを判断できる。 衣食住などの生活で使う身の周りの物を、持っている現金の範囲内で購入できる。 プリペイドカードやキャッシュカードが現金と同じ価値があることが分かる。 プリペイドカードやキャッシュカードの利用の仕方が分かる。 レシートや領収書の内容を読み取り、家計簿に記録できる。 スポーツや音楽鑑賞、ペット飼育、植物の栽培などで生活を楽しむことができる。 親戚や友達の家を訪問したり来客の対応をしたりすることができる。
	い道具や安全・器具等衛生の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活上で使用する道具や器具などの正しい使い方が分かり、安全や衛生に気を付けながら実習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 衣食住で使う電気器具、石油・ガス器具、裁縫道具、調理用具、用品を使用目的に即して選択できる。 衣食住で使う電気器具、石油・ガス器具、裁縫道具、調理用具、用品操作や使用方法、保管や手入れ、故障時の対応が分かる。 実習時には服装を整え、器具や道具を周囲に配慮して扱い、基本操作の手順を守って使うことができる。 <p>【衣：洗濯機・アイロンやミシンなどの電気器具、はさみや針などの裁縫道具】</p> <p>【食：電子レンジ・冷蔵庫などの電気器具、ガスレンジなどのガス器具、茶碗やコップ、皿などの食器、洗剤など】</p> <p>【住：掃除機・蛍光灯などの電気器具、エアコンや暖房機、ほうきやちりとりなどの掃除用具、清掃用の洗剤】</p>
	家庭生活に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 被服、食物、住居などに関する実習を通して、実際的な知識と技能を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進んで清潔な衣服を着ること、季節、温度、場所に応じた衣服を着ること、衣類の材料や汚れに応じた洗い方で洗濯すること、布地の性質に合わせてアイロン仕上げをすることなど日常生活に使う衣服の使用や洗濯ができる。 衣服のほつれなどをまつり縫いや返し縫いで衣服の修繕ができる。 型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って簡単な小物や袋物を作る製作ができる。 栄養素及びその働きを知り、いろいろな食品を組み合わせて食べること、食品製造年月日、消費期限、賞味期限などにより新鮮な食材を選ぶことなど食品の選択ができる。 冷蔵庫や冷凍庫を適切に使うことなど食品の保管ができる。 日常的な食品を用いた簡単な料理を計画し、その献立に応じた買い物をする（献立作り）などができる。 食材の洗い方、切り方、加熱の仕方が分かり調理をすること、献立に見合う調味料を適量使うことなど調理ができる。 彩りや量を考え、適切な器に盛り付ける、手順を考えながら食事の準備や後片付けをすることができる。 レストランなどで、メニューを見て料理の注文をすることや食事の作法を知ることができる。 自分の持ち物を工夫して整理すること、住まいの簡単な手入れや室内の飾り付けを工夫すること、家庭内の清掃を行い、気持ちのよい生活を工夫することなど住まいの掃除や手入れができる。 部屋の換気、採光照明の仕方を知り、健康な生活環境の工夫をすることができる。 定められたとおりにゴミを分別し適切に処理をすることができる。 掃除用の洗剤、殺虫剤などの使用法を知り適切に扱うことができる。
保育・家庭看護	<ul style="list-style-type: none"> 保育や家庭看護などに関心をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児と触れ合って、遊びや食事などの活動の様子や着衣などから、乳幼児の生活や発達などに興味・関心をもつことができる。 療養中の家族や介護の必要な高齢者の食事、服薬、睡眠などの様子から、通常とは異なる配慮が必要なことが分かる。 	

観点	内容	指導内容
6段階	家庭の役割	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活には家族一人一人の生活があり、互いに支え合って家庭生活を成り立たせていることが分かる。 親や兄弟姉妹、祖父母が家庭内の衣食住に関する仕事を分担し、自分も役割を果たすことで家庭生活が成り立っていることが分かる。 結婚生活では、親としての役割を果たすことが求められていることが分かる。 自分の身の周りのことを自分で進んで行うことができる。 家庭生活の中の仕事を分担し、家族の一員としての役割を果たすことができる。 家庭の団らんに参加し、家族を思いやる気持ちを持つことができる。 来客時の対応の仕方や礼儀正しい訪問の仕方が分かる。 家族がそれぞれの役割を果たすことによって家庭が機能していることが分かる。
	消費と余暇	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活では予算を立てることの必要性を理解できる。 計画的に預貯金ができる。 自分が使える金額の範囲で、趣味において必要な物を必要性の程度を踏まえて順番に購入することができる。 家庭生活の中で個人が自由に使える時間や休日を自分の趣味に有効に活用できる。 家族やヘルパーと有意義に余暇を過ごしたりすることができる。 品物を計画的に購入するために、現金で購入することとクレジットカードなどで分割して購入することの違いが分かる。 家計の収入・支出状況についておよそを知り、家庭の経済計画に協力できる。 余暇は家族にとって大切な時間であることが分かり、有効に過ごすことができる。
	道具・安全・衛生の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> 電気器具、ガス器具、暖房器具などの効果的な使い方が分かる。 節電や節水、灯油やガスを節約して、資源を大切に使うことができる。 道具や器具の保守・点検や保管を適切に行い、事故の防止に気を付けて熱源や道具器具を取り扱うことができる。 道具や器具の保守・点検や保管が適切にできる。 熱源や道具・器具などを事故防止に気を付けて取り扱うことができる。 使用電気容量に応じた器具や延長コードの使用が事故防止につながることを分かる。 冷蔵庫内の衛生管理や居室内の衛生が分かる。 漂白剤などの消毒薬や用具の使用ができる。
	家庭生活に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活で実際に必要な衣類の洗濯や保管、衣類などの修繕などを一人で遂行でき、日常生活の中で実践できる。 流行のデザインを取り入れながら自分の身体に合った衣類を選ぶことができる。 必要に応じてクリーニング店を利用することができる。 衣類などの整理や保管の仕方が分かる。 一人で衣服の簡単な補修をすることができる。 ミンの使い方に慣れ、いろいろな物を縫うこと、型紙の取り方が分かり簡単な衣服などの製作をすること、手芸品を作ることができる。 食物などに関する実習を通して、家庭生活で実際に必要な調理や食品の保存などを一人で遂行でき、日常生活の中で実践できる。 一日に必要な食物の量や栄養が分かり、バランスのよい食事を計画し調理することができる。 添加物などに注意して食品を選ぶこと、価格や鮮度を考えて材料を取りそろえることができる。 製造年月日、消費期限、賞味期限、食材の生産地や成分に注意を払うことができる。 食材の洗い方、切り方、加熱の仕方、味付けの仕方を工夫して、手順よく調理することができる。 盛り付けなどの食事の準備や後片付けを手際よく行うことができる。 住居などに関する実習を通して、家庭生活で実際に必要な住居の清掃や修理などを一人で遂行でき、日常生活の中で実践できる。 生活の中でゴミを減らす工夫をすること、手順を考慮して大掃除を行うことなどよりよい住まい方ができる。 防犯ベル、火災報知器、消火器などの正しい取り扱い方を知ること、地震、台風、洪水などの際の仕方を知り、防犯、防災の方法を身に付けることができる。 リサイクルなどについての知識を得ることができる。
保育・家庭看護	<ul style="list-style-type: none"> 保育や家庭看護などに関する基礎的な知識と技能を習得する。 乳幼児の心身の発達を理解した触れ合いやかかわり、家族の疾病による身体の状態や健康を回復する過程、高齢者のためのリハビリテーションなどに関することが分かる。 日常生活において、食事や排泄、衣生活、移動などの援助ができる。 (・実習を通して獲得した知識及び技能を実践することができる。) 乳幼児の基本的な生活の様子や自分から行動しようとする気持ちなどを大切にしながら保育することができる。 家庭看護について、療養中の家族や高齢者の心身の状態に配慮しながら、食事や入浴、移動などの援助をすることができる。 	